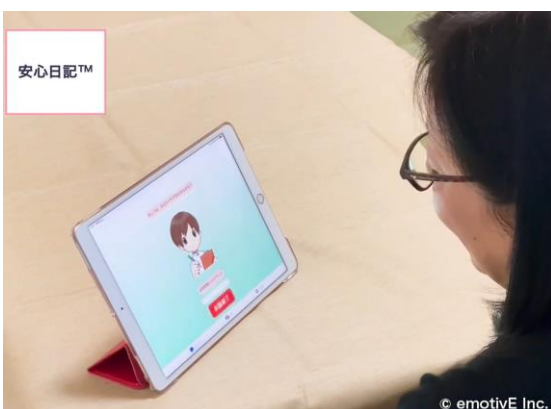


事業名 対話型ツールを用いた健康・生活機能の持続的モニタリング

実施主体 学校法人藤田学園 藤田医科大学

協力団体 株式会社emotivE、豊田通商株式会社、豊田市

事業の全体像



- ・対話型ツールを用いて、健康・生活機能を持続的にモニタリング
- ・重点的に介入すべき高齢者を、効果的にスクリーニングする仕組みを構築

1. 対話型AIとの自然な対話から健康や生活に関する情報を取得
2. 取得した情報を蓄積・統合・分析し、健康リスクを早期に発見
3. リスク早期発見後、個人の状態に合わせて必要なサービスを提案
4. 利用者の同意の上、自治体職員などの支援者に情報を共有



対話型AIによる情報取得
(見守りサービス「安心日記®」を利用)

	Day 1	Day 2	Day 3	...	Day 20	Day 21	Day 22
Q 1	1	1	1		1	0	1
Q 2	0	0	0		0	0	0
Q 3	1	0	0		0	0	0
...							
Q 23	0	0	0		0	0	0
Q 24	1	1	1		1	1	1
Q 25	0	0	0		0	0	0
フレイルスコア	18	17	17		17	16	16

健康・生活機能に関する情報取得
例) フレイル関連因子のモニタリング

事業名 対話型ツールを用いた健康・生活機能の持続的モニタリング

実施主体 学校法人藤田学園 藤田医科大学

協力団体 株式会社emotivE、豊田通商株式会社、豊田市

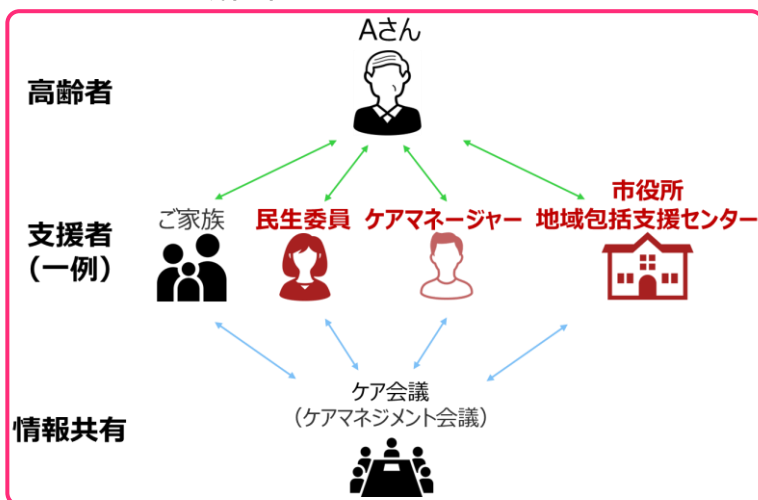
2024年度の実証内容

実証① ヒアリング調査

目的 既存の仕組みを把握し、解決を図るべき課題・求められる機能を明確とする

内容 ・地域在住高齢者の生活支援（見守り等）に関する実態把握
・提供予定サービスに対する意見聴取

対象 ・地域在住高齢者の生活支援の関係者（下図赤字）
・地域在住高齢者



当事者への
ヒアリングを
通して、生活
支援の実態
を把握する

実証② 短期間試用

目的 地域在住高齢者を対象に、提供予定サービスの有用性を確認する

内容 提供予定サービスの一部機能の体験

対象 地域在住高齢者（5名程度）

体験内容（仮）：日常会話
フレイル関連因子のモニタリング
フレイル予防対話



検証項目（仮）：フレイル関連因子の取得精度、
対話タイミング、対話時間、
音声認識含む操作性